資料４

第3回　専門委員会　資料

学校法人国際共立学園
国際理容美容専門学校

沿　革

1955年
(昭和30年)
文京区駒込に国際高等理容学校　開校

1958年
(昭和33年)
荒川区　東日暮里に新校舎　建設

1963年
(昭和38年)
松村重貴智　藍綬褒章　受賞

1966年
(昭和41年)
校名を国際高等理容美容学校へ改称

1968年
(昭和43年)
松村重貴智氏　勲五等旭日双光章　受賞

1975年
(昭和50年)
理美容学校初 ヨーロッパ研修旅行を実施
吉田實氏　藍綬褒章　受賞

1976年
(昭和51年)
校名を国際理容美容専門学校へ改称

1982年
(昭和57年)
留学生受け入れ校に指定

1983年
(昭和58年)
2号館　竣工
吉田實氏　勲五等瑞寶章　受賞

1987年
(昭和62年)
日本初 エステティシャン養成学科
ビジネス美容科を設置

1989年
(平成元年)
国費留学生受け入れの開始

1991年
(平成3年)
本館（1号館）を完全リニューアル

1994年
(平成6年)
全国発　理容科・美容科を2年制に変更
全国発　理容美容高等課程　美容高等科を設置

1995年
(平成7年)
理容美容学校初専門士を持ったエスティシャンを
ビジネス美容科より輩出

1998年
(平成10年)
理容・美容専門学校2年制が義務化

1999年
(平成10年)
3号館　竣工

2001年
(平成13年)
全国発CIDESCO認定校

2004年
(平成16年)
中村文雄　瑞寶双光章　受賞

2005年
(平成17年)
創立50周年記念式典を
ホテルニューオータニで挙行

2006年
(平成18年)
4号館　竣工

2010年
(平成22年)
創立55周年を迎える

2012年
(平成24年)
新館　竣工

2014年
(平成26年)
職業実践専門課程　認定
ビューティアーティスト科を設置

2015年
(平成27年)
創立60年記念式典を挙行

2020年
(令和2年)
国際共立学園高等専修学校　開校

(右)初代理事長：松村重貴智

業界人が業界人を育成する

設置学科

【職業実践専門課程】

理容科（2年）

スタイリスト
コース

リラクゼーション
コース

美容科（2年）

ヘアデザイン
コース

トータルビューティ
コース

ビューティアーティスト科（2年）

ヘアメイク
コース

ネイルコース

ビジネス美容科（2年）

【通信課程】

理容科・美容科

4月入学（3年）

10月入学（3年）

理容科・美容科

美容科　理容修得者コース（1.5年）

理容科　美容修得者コース（1.5年）

（１）養成施設の設置情報

養成施設の住所	東京都荒川区東日暮里5-17-12
養成施設の名称	国際理容美容専門学校
養成施設の種別	両方
養成施設の創設年	1955

（２）養成課程・教科課程・定員の状況

【理容師養成施設】

区分		総定員	実員(※)	同時に授業を行う生徒の	
				人数	学級数
昼間	通常	120名	88名	30名	4学級
	美容修得者				
夜間	通常				
	美容修得者				
通信	通常	90名	59名	30名	3学級
	美容修得者	40名	33名	20名	2学級

（※）昼間夜間：令和6年4月時点、通信：令和６年10月時点

【美容師養成施設】

区分		総定員	実員(※)	同時に授業を行う生徒の	
				人数	学級数
昼間	通常	240名	214名	40名	6学級
	理容修得者				
夜間	通常				
	理容修得者				
通信	通常	300名	240名	40名	9学級
	理容修得者	40名	19名	20名	2学級

（※）昼間夜間：令和6年4月時点、通信：令和６年10月時点

H29改正の実施状況を踏まえた課題

単位数が減ったことによる、特化した内容になったことには多少の懸念が残るが実習時間が増えたことは◯

例）保健の単位数4➡3
体全体の理解が必要な場合も。実習において必ずしも首から上だけでなく、フェイシャルマッサージ➡ボディマッサージへと連動させていく上では必要になる場合もある。

○理容師養成施設の通信課程における授業方法等の基準

平成20年2月29日 厚生労働省告示第42号

3　面接授業

二　単位数

2（略）**ただし、理容所に常勤で従事している者である生徒に対する美容修得者課程以外の教科課程における面接授業の時間数については、第1表の上欄に掲げる教科課目の区分ごとにそれぞれ同表の下欄に掲げる時間数を満たせば足りるものとする。**

第１表

必修課目	590時間以上	295時間以上
関係法規・制度	10時間以上	10時間以上
衛生管理	30時間以上	30時間以上
保健	25時間以上	25時間以上
香粧品化学	30時間以上	30時間以上
文化論	10時間以上	10時間以上
理容技術理論	25時間以上	10時間以上
運営管理	10時間以上	5時間以上
理容実習	450時間以上	175時間以上
選択課目（実習を伴う各課目）	10時間以上	5時間以上
計	600時間以上	300時間以上

○理容師養成施設の通信課程における授業方法等の基準の運用について

平成27年3月31日　健発0331第15号

各都道府県知事宛　厚生労働省健康局長**通知**（平成29年7月10日一部改正）

2　面接授業

(3)　理容所に常勤として補助的な作業に従事している者である生徒に対する面接授業の緩和に当たっては、入所決定時に理容所に常勤で従事していることを確認した上で行うとともに、入所途中においても、当該生徒が従事している理容所から、その証明の提出を受けるものとすること。

なお、入所途中で生徒の理容所における就業形態が常勤から非常勤に変更された場合にあっては、当該生徒が履修する面接授業の単位数又は授業時間数の緩和について、「通信課程における授業方法等の基準」第三の二の1及び3に定める表の中欄に掲げる単位数又は時間数により行うものとすること。 **ただし、理容所に常勤として補助的な作業に従事している者である生徒に対する面接授業の単位(時間)数の取り扱いについては、平成39年度までに一般の生徒と同基準とすることとしているので、各養成施設への周知・指導等を適宜行うこと。**

通信課程の特例
※通信課程を設置している養成施設のみ対象

非従者コース（600ｈ）をスタートさせているが、面接授業の登校日数が多い為、理解あるサロン従事者でなければ、すべての登校は難しい状況である。教員の負担も大きい。
（26/166）140名は当校非養成学科在校生

修得者コースも制度開始時は、特に理容資格希望者が多い印象であったが、ここ最近は落ち着いている。

	従事者（300）	非従事者（600）	修得者	計
理容科	74		33	107
美容科	62	166	19	247
計	136	166	52	354

サロン：日常的な人材不足により、スタッフをスクーリングに参加させづらい状況
学　校：授業実施教室、教員、時間数の確保

時間数が見直された場合、変更内容をサロン側にどのように周知できるかが懸念される

したがって、時間数の見直しにおいては
サロン学校双方の負担軽減を確保された上で実施すべきでと考える

例）600ｈ　➡　300ｈ以上

必修課目と選択課目の履修内容

美容科

科目区分	授業科目	分野
必修科目	関係法規･制度	
	衛生管理	公衆・環境衛生
		感染症
		衛生管理技術
	保健	人体
		皮膚科学
	香粧品化学	
	文化論	美容文化論
		美容色彩
		ファッション・フォト
	運営管理	
	美容技術理論	
	美容実習	美容技術実習
		実務実習
	計	
選択科目	美容美術	デッサン
		造形学
		店舗設計
	表現技術	話し方
		国語と文章
	ビジネスマインド	
	高度総合美容技術理論	
	高度総合美容技術実習	香粧品製法と実験
		高度技術実習
	校外実習	
	計	

必修課目と選択課目の履修単位

科目区分	授業科目	授業形態	必修選択の別	第1学年		第2学年		合計	
				授業時間	単位	授業時間	単位	授業時間	単位
必修科目	関係法規･制度	講義	必修	15	0.5	15	0.5	30	1
	衛生管理	講義	必修	45	1.5	45	1.5	90	3
	保健	講義	必修	45	1.5	45	1.5	90	3
	香粧品化学	講義	必修	30	1	30	1	60	2
	文化論	講義	必修	30	1	30	1	60	2
	運営管理	講義	必修	15	0.5	15	0.5	30	1
	美容技術理論	演習	必修	60	2	90	3	150	5
	美容実習	実習	必修	510	17	390	13	900	30
	計			750	25	660	22	1,410	47
選択科目	美容美術	演習	必修	30	1	30	1	60	2
	表現技術	演習	必修	30	1	30	1	60	2
	ビジネスマインド	講義	必修	45	1.5	15	0.5	60	2
	高度総合美容技術理論	演習	必修	15	0.5	30	1	45	1.5
	高度総合美容技術実習	実習	必修	66	2	279	9.3	345	11.5
	校外実習	実習	必修	24	1	6	0.2	30	1
	計			210	6	390	13	600	19
必修科目授業時数				750	25	660	22	1,410	47
選択科目授業時数				210	7	390	13	600	19
卒業に必要な総授業時数				**960**	**32**	**1,050**	**35**	**2,010**	**67**
行事・HR				**52**		**52**		**104**	
総時間数				**1,012**	**32**	**1,102**	**35**	**2,114**	**67**

理容科

科目区分	授業科目	分野
必修科目	関係法規･制度	
	衛生管理	公衆・環境衛生
		感染症
		衛生管理技術
	保健	人体
		皮膚科学
	香粧品化学	
	文化論	理容文化論
		理容色彩学
		ファッション・フォト
	運営管理	
	理容技術理論	
	理容実習	理容技術実習
		実務実習
	計	
選択科目	理容美術	デッサン
		造形学
		店舗設計
	表現技術	話し方
		国語と文章
	ビジネスマインド	
	高度総合理容技術理論	
	高度総合理容技術実習	香粧品製法と実験
		高度技術実習
	校外実習	
	計	

科目区分	授業科目	授業形態	必修選択の別	第1学年		第2学年		合計	
				授業時間	単位	授業時間	単位	授業時間	単位
必修科目	関係法規･制度	講義	必修	15	0.5	15	0.5	30	1
	衛生管理	講義	必修	45	1.5	45	1.5	90	3
	保健	講義	必修	45	1.5	45	1.5	90	3
	香粧品化学	講義	必修	30	1	30	1	60	2
	文化論	講義	必修	30	1	30	1	60	2
	運営管理	講義	必修	15	0.5	15	0.5	30	1
	理容技術理論	演習	必修	60	2	90	3	150	5
	理容実習	実習	必修	510	17	390	13	900	30
	計			750	25	660	22	1,410	47
選択科目	理容美術	演習	必修	30	1	30	1	60	2
	表現技術	演習	必修	30	1	30	1	60	2
	ビジネスマインド	講義	必修	45	1.5	15	0.5	60	2
	高度総合理容技術理論	演習	必修	15	0.5	30	1	45	1.5
	高度総合美理容技術実習	実習	必修	66	2	279	9.3	345	11.5
	校外実習	実習	必修	24	1	6	0.2	30	1
	計			210	6	390	13	600	19
必修科目授業時数				750	25	660	22	1,410	47
選択科目授業時数				210	7	390	13	600	19
卒業に必要な総授業時数				**960**	**32**	**1,050**	**35**	**2,010**	**67**
行事・HR				**52**		**52**		**104**	
総時間数				**1,012**	**32**	**1,102**	**35**	**2,114**	**67**

座学と実習の連携

実習開始前に必ず技術理論の授業を実施している（理論と実技の連動制）

資料1-1. 1-2. 2. 3. 4　参照

学習状況等に応じた実習の段階的な進め方

シラバスを学生便覧で共有し、学生はそれぞれの知識技術の授業時期、達成度等を事前に把握。

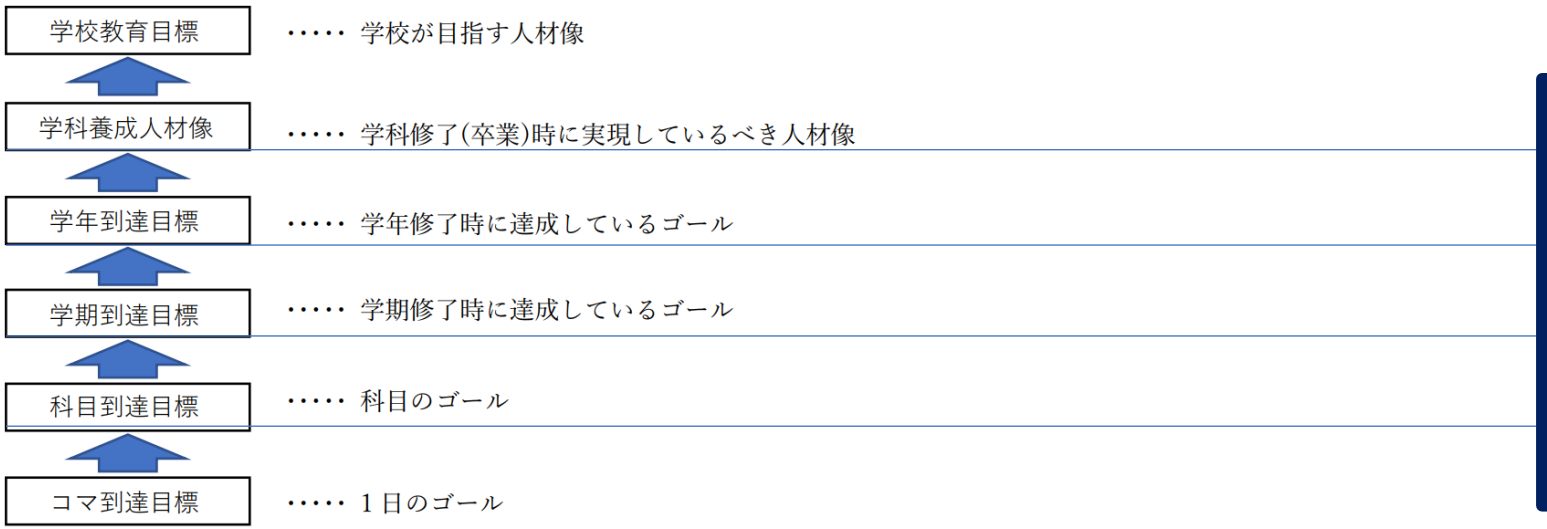
単科目での修得ではなく、**科目間の連携**を重視して教育課程を作成している。

国際理容美容専門学校の 4 つの指標・3 つのポリシー

資料　1-1

【4 つの指標】

1．　学校・学科はどんな人材を養成しようとしているのかというゴール（養成人材像）
2．節目節目（学年・学期）における到達度合いを評価する到達目標
3．各授業科目を履修することが、学科の養成人材像の実現にどう関係するのかを示す科目 到達目標
4．各授業回の履修内容が科目の到達目標にどう関連しているのかを示すコマ到達目標



科目ごとのシラバスのだけでなく、卒業時や学年・学期での学習目標や到達目標も提示し、学生自らが学習計画を立てられるようにしている。

【3 つのポリシー】

学科養成人材像は、学科修了(卒業)時にどんな人材になっていることがゴールなのかということ文章で表現したものです。 ゴールに到達したかどうかを、より具体的な指標で示したものがディプロマポリシー（ＤＰ）です。 どんな知識、技術・技能とコンピテンシー(社会人として望ましい行動特性)を身につけたことが 修了認定の条件となるかということを具体的に示しています。

理容科

資料　1-2

【養成人材像】

「新しい時代をリードする理容師へ」

【学年・学期末到達目標】

1年前期	・理容用具を正しく扱うことができる。 ・職業人としてのビジネスマインドを学び、基礎的な『接遇マナー』を習得している。（挨拶、身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞いなど） ・職業人としての『価値観』や『考え方』を学び、自分が成長していくために“どのような学習行動が必要なのか”を考え行動することができる。
1年後期	・理容基礎科目（シャンプー、マッサージ、シェービング、ワインディング、カッティング、その他）をできるようになる。 ・実務実習を通じて、業界・業態など職業理解を深めるとともにプロ（＝サロン）の接遇と、自分の現状との差を分析し、目指す理容師像に向かって行動することができる。 ・実務実習で学んだ事を、“今後の学園生活に活かすためのアクションプラン”として考え行動することができる。

2年前期	・専門課目（クラシカルバリエーション、トレンドカット、シェステ、ブライダルシェービング、その他）をできるようになる。 ・仲間、卒業生、講師との対話を通じて、理容業の可能性を広げるキッカケとする。それによって自分の考えを深め、将来像を描き、新しい価値（＝サービス）を創造し、発表することができる。 ・目標とする自分と現状の自分との差を分析し、目標達成に向け正しく自律することができる。（※PDCAサイクルを回すことができる）
2年後期	・理容基礎と専門課目で学んだことを、人間モデルで活かすことができる。資格試験課題（実技・筆記）を合格することができる。 ・業界人とディスカッションを交え、自身のキャリアを考える上で根幹（基軸）となる『職業観』『価値観』『考え方』を学び、実現したい理容師像へ向かって行動することができる。 ・組織（クラス、委員会、グループ活動）の中で、他者と協働しながら目的を共有し、目標を達成するため主体的に行動することができる。

シラバス（美容実習サイドシャンプー）

資料　2

科目名	美容技術実習 サイドシャンプー	学　年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	30(1)
教育目標・ねらい	顧客との距離感を掴み、正しい作業姿勢を身につけることで故障を予防させる。顧客それぞれの毛髪や頭部の形状の違いを理解させる。				

授業回	学習内容/本時の到達目標	備　考
1回(2ｈ)	用具の説明、タオル・クロスの掛け方、ブラッシング説明・練習 /顧客との距離感を理解し、正しい作業姿勢をとることができる。	
2回(4ｈ)	ブラッシング、マッサージ説明・練習(相モデル) /顧客に力加減を確認し、最適化することができる。	
3～４回 (6～8ｈ)	復習、教室にてウィッグを使用してシャンプー手順を説明・練習 /頭部の形状や手技の種類を理解する。	
5～6回 (10～12ｈ)	実習室の使用方法と注意、ご案内、ブラッシング、プレーンリンス /設備の使用方法を理解し、安全に使用することができる。	
7～8回 (14～16ｈ)	ご案内、ブラッシング、プレーンリンス、ワンシャンプー /毛髪を十分に濡らし、シャンプー前の処理ができる。	
9～10回 (18～20ｈ)	ご案内～ワンシャンプー～マッサージ /シャンプーによって十分に汚れを落とすことができる。	
11～12回 (22～24ｈ)	ご案内～ワンシャンプー～マッサージ通し練習 /施術の一連の手順を理解し、施すことができる。	
13～14回 (26～28ｈ)	ワンシャンプーテスト /施術の一連の手順を理解し、施すことができる。	
15回 (30h)	筆記試験	

到達目標	作業に適した姿勢や、頭部の形状に対する手技等と理解し、説明できる。各技術の目的を説明でき、それに沿って施術をすることができる。
評価方法	各期実技試験(100点満点)及び学科試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない
テキスト	「美容技術理論１・２」「技術テキスト」
特記事項	DP1.2.5 CP1.3.4.7

科目名	美容技術実習 サイドシャンプー	学　年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	30(1)
教育目標・ねらい	シャンプー技術の意義を理解し、施術前後の毛髪と頭皮の状態の変化を想定させる。基本的な技術とともに、他の技術の前後処理としての技術を理解させる。				

授業回	学習内容/本時の到達目標	備　考
1回 (2ｈ)	前期復習、前後処理の種類、シャンプーの目的・意義の確認 /他の技術の関連、施術の意義を説明できる。	
2～3回 (4～6ｈ)	前期復習(ご案内～ワンシャンプー～マッサージ) /改めて顧客との適切な距離や姿勢、その意義を確認する。	
4～5回 (8～10ｈ)	ツーシャンプー手順説明・練習 /各シャンプーの目的の違いを説明できる。	
6～7回 (12～14ｈ)	ご案内～ツーシャンプー～マッサージ練習 /適切な手順で施術ができる。	
8～13回 (16～26ｈ)	ツーシャンプー一連タイム入れ /定められた時間内手順通りに施術できる。	
14～15回 (28～30ｈ)	ツーシャンプーテスト /定められ時間内に適切な施術ができる。	

到達目標	シャンプーと他の技術や薬剤との関連を理解し、前後処理としての役割を説明できる。各シャンプーの目的の違いを意識して、施術することができる。
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない
テキスト	「美容技術理論１・２」「技術テキスト」
特記事項	DP1.2.5 CP1.3.4.7

授業回毎に到達目標を設定し、共有している。また、学科のDP・CPとも連動させている。

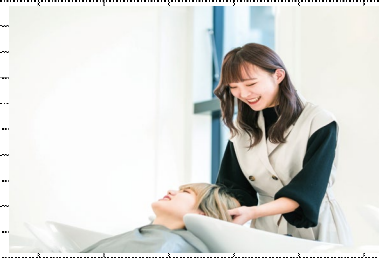
2. 運営方針(DP･CP達成度の評価規準)

DP
1. 美容師に必要なホスピタリティマインドを習得できる
2. スタイリストに必要な基礎技術、知識が修得できている
3. ヘアデザインを創造することができる
4. 業界を知り、将来の選択ができるようになる
5. 毛髪化学や商材などの専門知識を習得し、提案できるようになる

CP
1．ビジネスマインド教育を通して規律性、協調性、接遇を学ぶ
2．CSR活動、老人ホームボランティアを通し、地域社会やグローバル社会の課題、調査分析を行い相手本意の考えを学ぶ
3．美容師に必要なヘアデザイン、基礎技術力および美容師資格に必要な技術を学ぶ
4．美容師に必要な知識および美容師資格の知識を、美容技術理論及び衛生科目で学ぶ
5．美容師に必要な専門的・学問的知見、スタイル作成に基づく選択授業（デザイン）を学び、自身のイメージした作品を創る
6．上記3項目（3．4．5）を含め産学連携教育を行い、自身のキャリアプランを形成する
7．香粧品化学の専門的知識の習得および選択課目（運営管理、マーケティング、簿記、広告宣伝、店舗設計）を通して社会調査、顧客データ分析、議論の仕　方、プレゼンテーション能力を身につけ、オリジナルシャンプーの作成を行う
8．2年生後期では、基礎科目においてレベルに応じたクラス編成を行い、少人数クラスにおいてより高度な知識・技能を取得する国家試験対策を行う

科目連携①

区分1	区分2	科目名	分野	単元	1年次 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2年次 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
必修課目		美容技術理論	シャンプー理論																									
		運営管理	運営管理																									
		美容実習	シャンプー	サイドシャンプー																								
				リアシャンプー																								
		実務実習																										
選択課目	一般教養課目	表現技術	話し方																									
			国語と文章																									
		高度美容理論	美容英会話																									
	専門教育課目	ビジネスマインド	ビジネスパーソン	学生と社会人の違い																								
				OK行動																								
				NG行動																								
				働く心構え																								
				話のきき方																								
				笑顔																								
			身だしなみ 立ち居振る舞い	身だしなみ																								
				立ち居振る舞い																								
			言葉遣い	敬語																								
				敬語のテクニック																								
				気になる日本語																								
				よく使う接客用語																								
			来客対応	方向や商品の指し示し																								
				案内誘導																								
				飲み物の提供																								
				物の授受																								
				お会計																								
				お出迎え・お見送り																								
			電話対応	基本																								
				実践フロー																								
				こんなときどうする																								
				予約の受け方																								
				アポイントメントの取り方																								
			ビジネスパーソンとしてのマナー	時間のマナー																								
				仕事上のコミュニケーション																								
				PDCA																								
				公私の区別																								
				頂き物の取り扱い																								
				共有スペースでのマナー																								
				名刺交換																								
				手紙の書き方																								
				SNSの使い方・マナー																								
				クレーム対応（謝罪）																								
		校外実習																										
		HR	キャリア教育 就職活動	自己理解																								
				ブランディング																								
				キャリア・ライフプラン																								
				求人票の見方																								
				履歴書の書き方																								
				自己PR																								
				会社訪問の仕方																								
				郵送物の取り扱い																								
				社会保険の仕組み																								
				税の仕組み																								



資料　3

科目連携　②

区分1	区分2	科目名	分野	単元	1年次 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2年次 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
必修課目		美容技術理論	ヘアケアマイスター																									
			美容色彩学																									
		香粧品化学	香粧品化学																									
選択課目	専門教育課目	高度実習	香粧品製法と実験																									

ヘアケアマイスター

色彩学

香粧品製法と実験

科目連携　③

区分1	区分2	科目名	分野	単元	1年次 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2年次 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
必修課目		運営管理	運営管理																									
		理容技術理論	理容色彩学																									
選択課目	一般教養課目	芸術	造形学																									
	専門教育課目	ビジネスマインド	店舗設計																									
			広告・宣伝																									
		校外実習																										

造形学

店舗設計

広告・宣伝

資料　4

選択課目の全体デザインの力点

基本的には必修科目に**プラスオン**できる内容設定し選択必修としている。

入学前段階で、幅広く技術を学びたいというニーズも多く、選択課目では広く多くの学びを得たいという傾向が強い様に感じている。
一方、業界サロンは特化型サロン（髪質改善・カラー・他専門店）が増えており、それらのサロンに輩出する人材育成が必ずしもできるとは限らない。

例）エステコースに代表されるように専門課目の領域（600ｈ）を活用しコース分けしていることが多いと感じている。実質600ｈ以内の時間数の中で、専門技術知識に特化する科目はさらに絞られることから、自信をもってその職業（この場合：エステティシャン）につくことは難しいという懸念が残る。
したがって、当校においてはそのようなデザインはしていない。その場合、別学科（非養成施設）を設置

選択課目の課目例

P8.9　必修課目と選択課目の履修内容

通年の業界課題である”離職率”を考えれば、自身の将来について考える等の※1**キャリア教育に係る科目**があってもいいのではないか。
運営管理や※2ビジネスマインド等の選択課目内の連携やHRを活用しその機会を創出している。

※1　主に就職活動や将来設計等関わるもの
※2　当校が選択課目においている科目の一つ

P13　科目連携①　下部HR・行事　参照
P7.8必修課目と選択課目の履修内容　参照

実務実習の役割の位置づけと意義

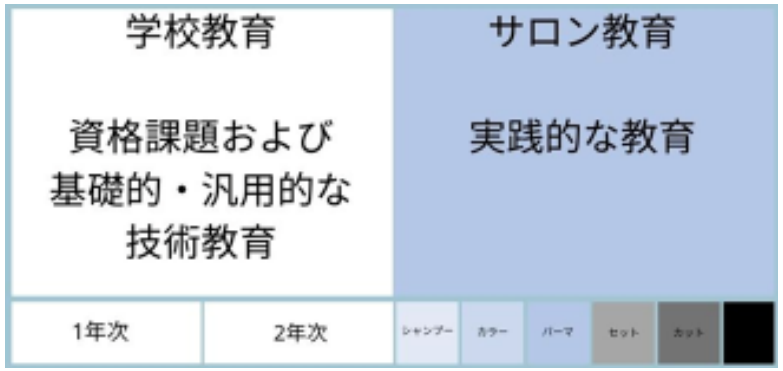
就職活動及び就職後を意識して、理美容行為を実施することを目標とし、学校教育とサロン教育の**グラデーション化**を目指している。

学校教育とサロン教育
接続領域のグラデーション化

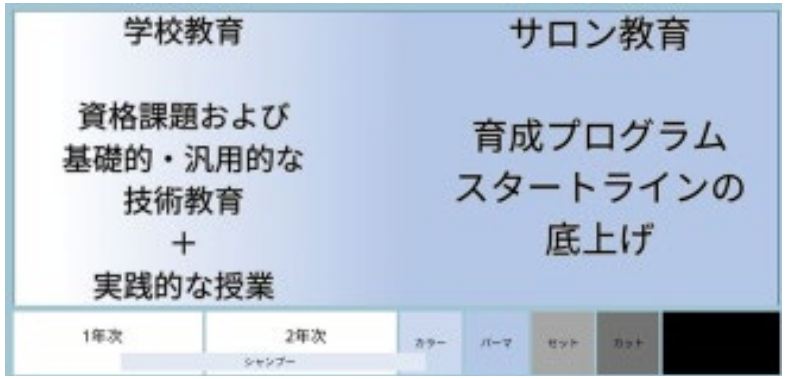
↓

即戦力

従来



当校での取り組み



学校が求める理美容行為は以下の通り

- パーマヘルプ
- パーマロッドアウト
- 頭および肩のマッサージ
- ドライイング
- プレーンリンス
- シャンプー

目標はシャンプーの実施

就職後 入社初日にシャンプー入客を目標とする

授業にて各種シャンプーを履修

サイド、リアシャンプーを授業内で履修

実務実習にてシャンプーを体験する

実務実習は１年次と２年次にも実施予定

内定サロンのシャンプー技術を在学中に習得

就職内定後に、内定先サロンのシャンプー技術を授業内で実施します

入社後、即入客

美容行為の実施数 （R5年度 美容科　実施実績）

シャンプー（プレーンリンス含む）以外はほぼ問題なく実施できた為、シャンプー有無のみを集計

シャンプーの実施数	
○	78
△	8
×	5

R6年度からは×のサロン以外での実施を検討

（○実施 △OKだけど本人に原因有 ×方針的にNG）

実務実習における美容行為の導入は、Ｒ５年度より本格的に実施開始。実施前に（実務実習）説明会にてサロン側に趣旨は理解しては貰っているものの、方針的にNG×については学生の居住エリアとサロン所在地とのマッチングにより、事前に美容行為が可能と回答したサロンだけに割り振ることが出来ていない為に、美容行為が実施できていない学生もいた。その場合は２年次での実務実習で確実に実施できるよう、フォローしている。
また、本人に原因有△については、P23実施フローの学生トレーニングの不足によるもの。
（主に自主的な取り組み不足により、サロンが定めるレベルに到達しなかった）

実務実習の実施の流れ

後援会サロン数（367店舗）	ご案内発送数	223
	承諾サロン数	125
	実施サロン数	71※1

※1　実施サロン数はあくまで企業数。同企業の他店舗に複数人配属されることもある。

		学年	時期	1日あたり	期間	総時間数	目的・内容
①	校外実習	1年次	4.5月	6 h	3日	18 h	業・仕事を知る　イメージギャップの低減
②	実務実習	1年次	1.2月	6 h	10日	60 h	理・美容行為を実施
③	実務実習	2年次	6.7月	8 h	2日	16 h	理・美容行為を実施 就職を意識したタイプ別サロン①
④	実務実習	2年次	6.7月	8 h	2日	16 h	理・美容行為を実施 就職を意識したタイプ別サロン②
⑤	実務実習	2年次	12月	7 h	4日	28 h	理・美容行為を実施 就職が決定したサロン

校外実習➡実務実習➡サロン説明➡実務実習➡就職先決定➡実務実習

①　②　②⇔③　③④　④⇔⑤　⑤

実務実習のフロー

実務実習フロー

日　時	内　　容	備考
10月中旬	実務実習のお願い発送 ※締め切り：10月末日	手紙・封筒、説明動画を添付する
11月初旬	実務実習サロン、学生希望調査および振り分け	受入れサロン一覧表作成
11月14日	サロン説明会 ※希望者のみ	受け入れにあたって
11月下旬	受入れ可能サロンにお手紙発送	
11月下旬	LHR	実務実習の諸注意
11月下旬～ 12月上旬	派遣先サロン訪問（学生）	サロンワークの内容および美容行為の確認 実務実習計画書、学生自己紹介カード、日報
12月上旬～ 1月下旬	学生トレーニング	美容行為の内容を中心に、授業および自主練
1月下旬～ ２月上旬	LHR	実務実習の諸注意を再度確認
1月下旬～ ２月上旬	実務実習先訪問	
2月上旬	お礼状の作成 学生、日報の提出	
2月上旬～中旬	評価表・ｱﾝｹｰﾄ集計	
2月中旬～下旬	実務実習報告会	

①実施計画書
②事後評価について

資料5-1. 5-2. 6　参照

実施計画書

資料5-1

実 務 実 習 計 画 書

1．実習生に関する情報

氏名				
生年月日・性別		年　月　日（　歳）　男 ・ 女		
学籍番号				
所属学科			クラス	
学年			担任	
実習中の連絡先	本人	携帯番号		
		E-MAIL		
	学校	03-3803-6696		
緊急時の連絡先		氏名		本人との関係（　）
		TEL		
【実習にあたり特に伝達が必要な特記事項】・左利きである（ex）				

2．学校での学習状況

【学校での教育内容の概略】何をどこまで学んでいて何ができるような状態なのか
・シャンプー　サイドおよびリア ・カット　ウイッグ対象でのワンレン、セイムレングス、グラデーション ・セット　ウイッグ対象での日本髪 ・ワインディング　ウイッグ対象でのオールパーパスおよびロッドアウト

3．実習の概要

（1）　令和６年度生実務実習（全体スケジュール）

1期　令和7年1月２９日（水）～２月２日（日）

2期　令和7年２月５日（水）～２月９日（日）計１０日間

国際理容美容専門学校

（2）　美容実務実習　施設情報

会社名	サロン名	定休日	店長/オーナー	担当管理美容師

連絡先	TEL	
	E-MAIL	
持ち物、服装、昼食など		

4．C-P、D-Pに連動させたカリキュラムにおける実務実習内容について

※当該学科におけるカリキュラム到達目標や卒業認定条件を達成するため、以下の内容と実施時期について、サロン側と事前協議した上で、実施するものとする。

カリキュラムポリシー（C・P）	1．ビジネスマインド教育を通して接遇を学ぶ 2．CSR活動、老人ホームボランティアを通し、地域社会やグローバル社会の課題、調査分析を行う 3．美容師に必要なヘアデザイン、基礎技術力および美容師資格に必要な技術を学ぶ 4．美容師に必要な知識および美容師資格の知識を、美容技術理論及び衛生科目で学ぶ 5．美容師に必要な専門的・学問的知見、スタイル作成に基づく選択授業（デザイン）を学び、自身のイメージした作品を創る 6．上記3項目（3．4．5）を含め産学連携教育を行い、自身のキャリアプランを形成する 7．香粧品化学の専門的知識の修得および選択課目（運営管理、マーケティング、簿記、広告宣伝、店舗設計）を通して社会調査、顧客データ分析、議論の仕方、プレゼンテーション能力を身につけ、オリジナルシャンプーの作成を行う 8．2年生後期では、基礎科目においてレベルに応じたクラス編成を行い、少人数クラスにおいてより高度な知識・技能を取得する国家試験対策を行う

資料5-2

ディプロマポリシー （D・P）	1．主体性や人間力を学び美容師に必要なホスピタリティマインドを修得できる 2．美容師に必要な基礎技術、自身に必要な応用技術を選択し学ぶことで就職後、早期入客デビューができる 3．作品鑑賞、作品制作を通してヘアデザインを学び、創造することができる 4．産学連携授業により業界理解を深め、将来の選択とセルフブランディングができるようになる 5．毛髪化学や基礎知識を学ぶことで、提案力を身に付ける

1期	① 基本業務の理解、清掃 ② 技術ヘルプ （バーマヘルプ、ロッドアウト） ③ 頭および肩のマッサージ
2期	④ ドライヘルプ ⑤ ブレーンリンス ⑥ シャンプー

5．実施における学校・学科、施設間での連携事項とその伝達（情報共有）方法

【対象】	【伝達（情報共有）項目・手段】
学生	欠席遅刻時はサロンおよび学校（担任）へ直ちに連絡すること
サロン	学生の無断欠勤等で本人へ連絡がつかない場合は学校へお電話ください （03-3803-6696）

6．評価方法

ルーブリック評価を基に、サロンご担当者様および学校職員で評価

7．施設情報（訪問時に実習施設から提供された情報）

実習指導体制　誰がどのように指導していただけるか

実習施設での１日のスケジュール（予定） ※出勤から退勤まで記入しトレーニングがある場合はそちらも含む	
時間	内容

客層や提供サービスによる実習内容（予定）

実習施設から実習生への要望

資料6

ルーブリック評価【実務実習評価項目】

※こちらの「ルーブリック評価」を基に実務実習終了後に学生の評価をお願いいたします。入力フォームがございますので、派遣先が決まりましたら別途メールにてへお知らせいたします。

			最終的に到達すべき目標（Capstone）	途中の目印となる道程標(Milestone)			最低の基準(Benchmark)	
			5	4	3	2	1	割合
サロン様評価	態度	＊挨拶 ＊表情 ＊身だしなみ	あいさつ・言葉遣いが丁寧で、場面に合わせた使い分けができる。 身だしなみも指摘すべき点はなく、清潔感があり、表情も不快感を与えることがな	挨拶は進んで行っている。 言葉遣いや声の大きさ、身だしなみに関しても、助言を与えればすぐに改善し、表情も不快感を与えることはない。	あいさつ・言葉遣いや声の大きさ、身だしなみ、指導を受ける際の表情など、適宜指導が必要であるが印象は悪くはない。	あいさつ・身だしなみや表情など要改善点が複数あり、適宜指導しているが改善に時間を要するなど、やや問題点が残っている。	あいさつ・身だしなみや表情など要改善点が複数あり、適宜指導しているが改善に時間を要するなど、問題点が残っている。	10%
	規律	＊遅刻欠席（体調管理含む）	遅刻・欠席はない。 時間に余裕を持って行動できている。		遅刻・欠席はないが、時間に余裕がなく、準備が不足している。		遅刻もしくは欠席があった。	10%
	自主性	＊自主性・積極性・行動力	どの場面においても自ら考え積極的に行動できている。 また、それが結果につながっている。	どの場面においても自ら考え積極的に行動できている。 判断において、少しのアドバイスで改善されている。	指示を受けた内容においては積極的に行動できている。	指示を受けた内容においては行動をしようと努力している。	消極的で行動しない。	10%
	他者交流	＊人間関係	顧客、実習指導者、関連スタッフとの関わりに問題はない。お互いに信頼関係を築き、良い人間関係を作れる。	必要があれば助言程度で改善し、問題のない他者交流ができる。	指導を受けながら、顧客、実習指導者、スタッフと良好な関わりを築けるよう、改善に向けて努力している。	指導を受けながら、顧客、実習指導者、スタッフと良好な関わりを築けるよう、改善に向けて努力しているが課題は多い。	継続的に指導しているが、改善の兆しが見えないか、顧客やスタッフとの交流に偏りや過剰な関わりがみられるなどの問題点が残っている。	10%
	美容行為	＊お客様への理美容行為の有無	パーマヘルプ、パーマロッドアウト、頭および肩のマッサージ、ドライイング、プレーンリンス、シャンプーが全て1回以上携わることができた	・シャンプー、もしくはプレーンリンスが1回以上携わることができた ・パーマヘルプ、パーマロッドアウト、頭および肩のマッサージ、ドライイングのいずれか３つ以上携わることができた	・パーマヘルプ、パーマロッドアウト、頭および肩のマッサージ、ドライイングのいずれか３つ以上携わることができた	・パーマヘルプ、パーマロッドアウト、頭および肩のマッサージ、ドライイングのいずれか２つ以上携わることができた	・パーマヘルプ、パーマロッドアウト、頭および肩のマッサージ、ドライイングの内、携わることができたのが１つ以下	50%
学校評価	提出物	＊日報の提出状況	期限内に提出した。全て記載ができて内容も良い。	期限内に提出した。全て記載ができているが内容が薄い。	期限内に提出した。全て記載ができているが内容に未記入がある。	提出が遅れた。内容は全て記載できている。	未提出。	10%

受入れサロン側の評価
集計結果

	サロン評価					学校評価
評価軸	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6
評価項目	態度	規律	自主性	他者交流	美容行為	提出物
評価内容	挨拶 表情 身だしなみ	遅刻欠席 （体調管理）	自主性・積極性・行動力	人間関係	お客様への理美容行為の有無	日報の 提出状況
平均値	**4.6**	**4.4**	**4.5**	**4.7**	**4.8**	**2.9**

実務実習の受け入れサロンの確保

後援会サロンへ受け入れの可否確認（案内発送）
受け入れ可能サロン➡実務実習説明会（受け入れにあたって）
実務実習計画書
美容行為のマニュアル

P23　実務実習フロー　参照

実務実習の上限（60時間）について

特に少ないとは感じていない。年間60ｈ以上が必要な際は、校外実習の枠で同様に実施すれば十分であると考える。

校外実習

入学して間もなくの時期に実施している見学実習のほか芸術鑑賞（歌舞伎や劇団四季など）を実施している

見学実習とは・・・適切な指導監督下の元で理美容行為及びその不随する行為を行えるとされている実務実習とは明確に区別し、まだ何も出来ない状況で店舗運営の流れや、雰囲気、非接客時の動き等を学ぶことを目的としている。

課目	科目	内容	**時間数**
選択課目	校外実習	見学実習	**18**
		芸術鑑賞	**12**
		その他	

芸術鑑賞

見学実習の様子

養成段階と就職後の人材育成の連携・接続

業界サロンで組織した後援会、卒業生で組織した校友会と密に連携し、サロン説明会や講演会、相互情報交換会等を定期的に実施している。

サロン説明会

・就職活動としてサロン情報を入手

後援会主催研修会

・会員向けに教育の実態（学生の声）

同窓会主催　セミナー

・卒業生に向けた技術セミナー

少子化の影響

学生募集活動に影響が出ていることは間違いないが、業界（サロン）側も同様に人材確保に苦労している。

➡サロン側の採用条件（給与・各種手当・休日・労働環境他）が年々向上している点は、これから業界に出ていく学生にとって◯